
東方狂人鬼

狂哀殺人鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方狂人鬼

【Nコード】

N5383BA

【作者名】

狂哀殺人鬼

【あらすじ】

少年は虐められていた。少年は孤独となった。この狂った殺人鬼は幻想で何を見るでしょう。

プロローグ

僕は虐められていた。

僕が学校に転校生として来た時は皆優しかった。

でも、そんな平穏は長く続かなかった。

僕がいつもどおりに学校に行くと、ある異変に気がついた。

僕「あれ…？僕の上靴は…？」

そう、上靴がなかったのである。

探してみる、けど見つからない。

僕「ん？あれは… ■ ■ さんだ。」

人に聞いてみれば分かったと思った

僕「ねえ、 ■ ■ さん「！？こ…来ないで」「！？」
タッタッタッタッタ

僕「…え？」

僕はなんでそんなことを言われたのか分からなかった。

そして僕が仕方なく一人で探すと…

僕「…なんで…」

学校の用水路に僕の上靴があった。

これが僕の虐めの始まりだった。

数日後…僕は鬱になっていた。

僕「はあ…どうしてあんなことが起きたのかなあ」

あのことから数日特に何も無かったものの、
自分の上靴が無くなった事は僕にとって衝撃的だった。

僕「？あれは…」

向こうに○○君が居る…なんで止まっているんだろう？

そして僕が通り過ぎようと…

スッ

僕「…え？」

○○君が足をだして僕はそれに躓つまずいてしまった。

そういえば、目の前には階段があつて…

僕「…は…」

僕の目が覚めると病院だった。

僕の目の前にはお父さんやお母さんが泣いて座っていた。

どうやら僕は階段へ落ちて骨を折ったらしい。

そして、その日から虐めはエスカレートしていった。

あれから一年経った。その間にいろいろなことがあった。

そして僕はこう思っていた。

僕（なんでこんなことに遭わなければいけないんだ、
許さない…許さない！）

そして僕は言うことにした

僕「皆どうしてこんなことするの！」

＊＊「うるせえ！黙れ」

□□「うぜえんだよ！」

●●「消えろ！」

そして…

「お前なんて必要ないんだ！」

エ…イマナンテ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5383ba/>

東方狂人鬼

2012年1月14日21時52分発行